

## ワークショップ4

### ボランティアの育成

井上慎吾(日本赤十字社血液事業本部)

#### (はじめに)

昭和37年に産声を上げた「日本赤十字献血学生連盟」は、半世紀を経て現在「全国学生献血推進実行委員会」として、活動が継続されている。

国が示す、平成28年度の献血の推進に関する計画の「若年層を対象とした対策」に学生献血推進ボランティア等の同世代からの働きかけと記されていることから、学生による献血未経験者へのきっかけ作りにおいても、その活動の意義は極めて大きい。

#### (現　況)

現在、学生献血推進団体への加盟は全国で233団体、およそ6,000名が献血推進活動に協力をいただいている。この活動の主体は昭和63年から継続している「全国学生クリスマス献血キャンペーン」となっている。

学生が集まり協議する場は、各血液センターにて年間定期的に行われているが、全国学生推進代表者会議(5月・8月・3月)と全国学生推進実行委員会(8月)を経て、全国的に統一した展開が図られ、主には同世代の若年層の献血推進と啓発が行われている(図1、図2)。

日本赤十字社では、若年層に献血の意義を伝え、献血行動を促すことを目的とし、また、メディアを活用した戦略的な広報展開として、平成21年度より「LOVE in Actionプロジェクト」を通年で展開している。この中でご当地大作戦として、イベントと献血バスの配車時には必ず開催県等の学生献血推進団体が参画し、同世代からの献血啓発等を強化し、献血に結び付ける効果的な取り組みが継続されている(図3)。

#### (今後の展開)

また、平成28年度の献血の推進に関する計画の「若年層を対象とした対策」には、都道府県および市町村は、若年層の献血への関心を高めるため、

採血事業者が実施する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的に活用してもらえるよう学校等に情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する、と記載がある。

今年度の8月東京にて開催された「全国学生推進実行委員会」において学生による「献血セミナー」の参画が提唱され、セミナー統一スライドの作成を経て、各血液センターと実施に向けた準備に入る事が採択された(図4)。

今後は、将来の献血基盤となる若年層への献血に意識付けを図るためにも、学生献血推進ボランティアの協力を得ながら、学生による「献血セミナー」の実施を始めていく計画である。

血液事業本部は、厚生労働省等、関係機関および都道府県と連携を強化するために、献血推進協議会等に活動のフィールドを広げ広く参画できるように、学生献血推進団体からの発信をサポートし、学生ボランティア育成に向けた取り組みを図っていきたいと考えている。

#### (これから課題)

##### 1. 大学献血の推進

献血未経験者の背中を後押しして、若年層の献血者を増やすために、年間の学内献血の実施回数の増加を図り、10代・20代の献血者数を増やす原動力となっていただきたい。

##### 2. 固定施設でのボランティア活動

学内献血のみならず、固定施設における呼びかけ・献血者への案内等、同世代の献血者を啓発していただきたい。

##### 3. 献血セミナーへの参画

学内献血時はもとより、高校等への献血セミナー推進のために、血液センター職員と協働して、セミナー参画していただきたい。

#### 4. 学生献血推進団体を卒業した後のサポーター

赤十字には、全国の各県支部にボランティアを登録いただく担当課があり、赤十字奉仕団等に登録いただき、卒後も赤十字の事業を引き続きサポートしていただきたい。

**学生献血の歴史について**

・昭和35年 青少年赤十字団員(高校生)が中心となり、東京電機大学附属高校や、都立戸山高校で献血の呼びかけ

・昭和37年 9月 東京の8大学の有志により「日本赤十字献血学生連盟」を結成

・昭和60年 8月 全国学生献血推進リーダー研修会を本社にて実施

昭和63年 8月 全国学生献血推進リーダー研修会の中でも、愛知県の学生献血推進委員よりクリスマス献血キャンペーン提案

・昭和63年12月 全国学生クリスマス献血キャンペーンを開催

図 1

#### (血液事業本部の課題)

1. ボランティアの育成の観点から、今後も学生献血推進団体と連携を図りたい。
2. 献血推進調査会・中央連絡協議会等の厚生労働省の会議に参加し、活動報告をいただいているが、各県の献血推進協議会へも活動報告や県内献血推進啓発を提議いただける枠組みを構築したい。

**東海北陸ブロック(福井県赤十字血液センター活動写真)**

図 2

**LOVE in Action 「ご当地大作戦」における学推の応援体制**

若年層献血者の献血率アップ

当該施策により、若年層(10代、20代の献血率を上昇させる)  
第8期(H28.7.1-29.6.30)

未実施血液センターを中心とした展開 ← → ブロックセンターと連携

図 3

**～輸血を受けた人の声～**  
(サンキューレター)

28歳の誕生日を目前に突然のがん告知。少し不安もありましたが、何よりも「生きる！生きたい！生きていきたい！」という気持ちが強く、家族や友人そしてたくさんの方の支えの中、無事治療、そして移植を受けることができました。

抗がん剤での治療中は、あまりの辛さに何度も心が折れそうになりましたが、支えてくれている人（献血に協力されている方々）の温かい優しさのおかげもあり、こうして乗り越えることができました。本当にご協力ありがとうございました。

命が延びて今年で6年、献血にご協力いただいた貴方様に心より感謝いたします。希望をありがとうございます。

ベンネーム(ゆかりん、35歳)

実際の受血者の顔・声による深いコミュニケーションによって、献血行動の気持ちを動かすことが重要である。

図 4